

## 令和5年度新潟市介護人材実態調査について

## 1. 調査の実施について

第9期介護保険事業計画（令和6～8年度）策定及び今後の新潟市介護人材確保対策の基礎資料とするため、新潟市内介護事業所の介護職員の総数や常勤換算数、人材確保に係る事業所の取組、福利厚生等の状況等を調査する。

本調査によって新潟市の介護職員数について明確にし、今後確保が必要な介護人材数の推計を行う。

## 2. 調査の概要

調査名	新潟市介護人材実態調査
調査対象期日	令和5年4月1日
調査実施期間	令和5年4月12日～令和5年5月19日
調査対象 (母数)	市内介護事業所 (959事業所) ※居宅介護支援、居宅療養管理指導、福祉用具購入・貸与、 訪問看護、訪問リハビリテーション、短期入所生活介護（空床型）、 短期療養生活介護を除く
回収率	56.0%（537事業所）
調査方法	Eメールによる配布・回収

### 3. 調査結果

- ・介護職員数は約 10,857.3 人であり（常勤換算数）、前回調査(R4)から 232 人増加している。
- ・前回調査と比較して、介護職員の採用率は全体的に上がっている。
- ・新潟市内の介護事業所の 55.5% が従業員の不足を感じている。
- ・ICT やロボットを導入している介護事業所は 67.4% であった。（前回調査(R2) 56.4%）
- ・現時点雇用していないが、今後外国人職員の雇用を考えている介護事業所は全体の 40.4% であり、実際に雇用している介護事業所は全体の 9.9% であった。（前回調査(R2) 4.7%）

#### ① 従業員の過不足の状況について

実態調査「Q5-1 事務所での従業員の過不足の状況」

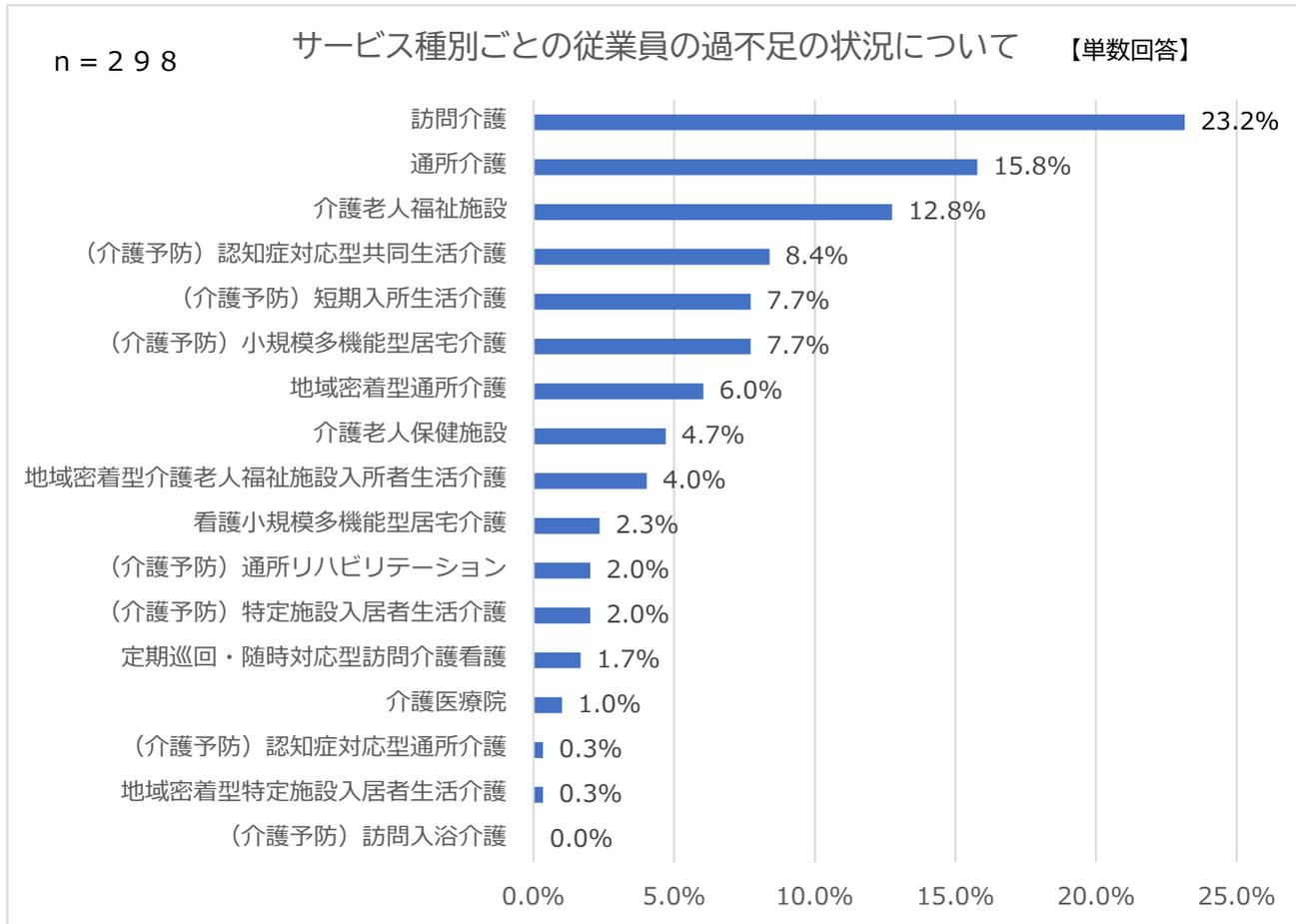
・「大いに不足している」と回答した事業所は 5.6%、「不足している」が 20.5%、「やや不足している」が 29.4%、「適当」が 43.6%、「過剰」が 0.6% であった。

・不足感（大いに不足＋不足＋やや不足）を感じている事業所が 55.5% であり、回答した事業所数の合計をサービス種別ごとに分析した結果が以下のとおりである。

【不足感を感じているサービス種別 上位3位】

「訪問介護」 23.2%、「通所介護」 15.8%、「介護老人福祉施設」 12.8%

「訪問介護」が最も不足感を感じている傾向がある。



## ② 人数不足によって、事業を縮小している事業所があるのではないか

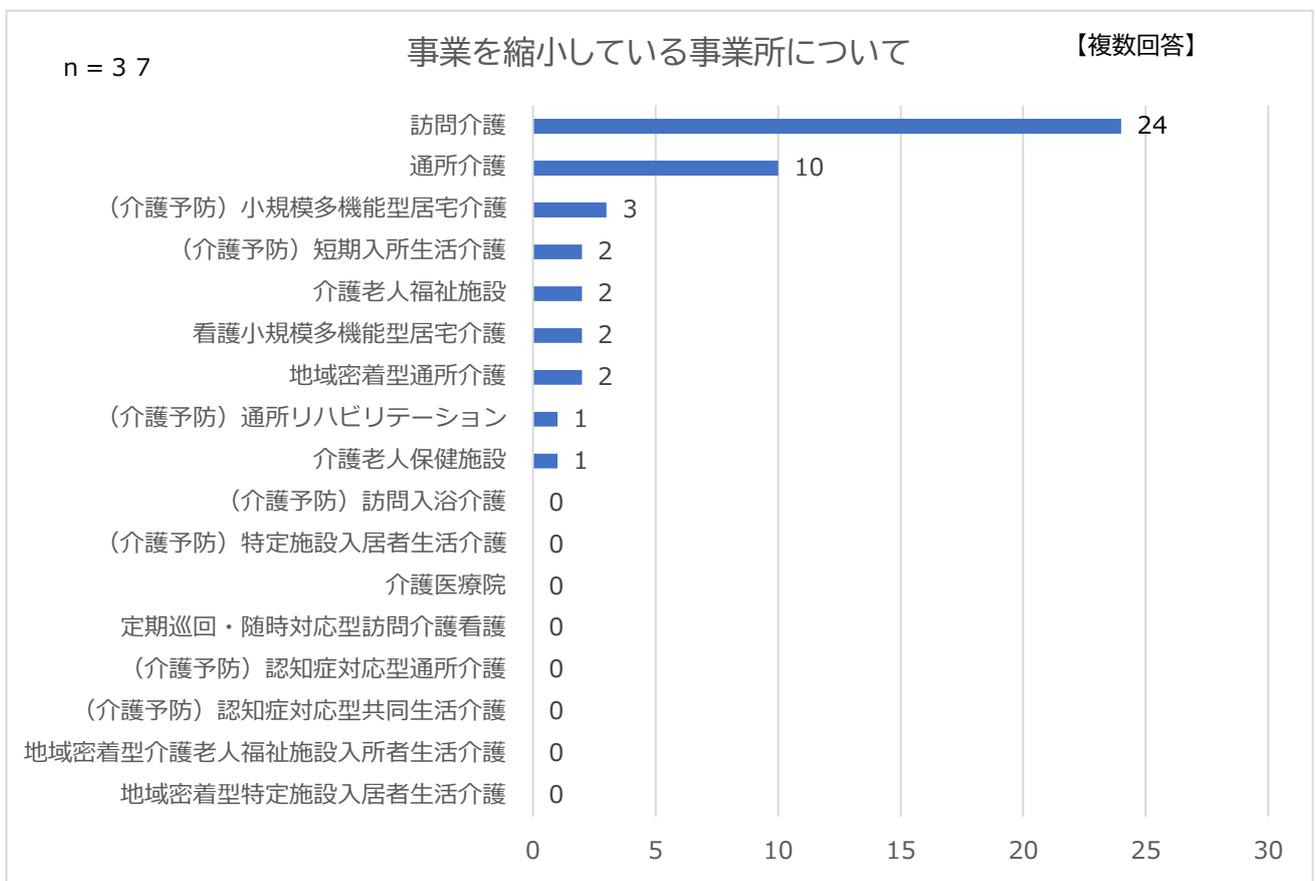
実態調査「Q 5-3 従業員不足への対応状況（事業所）」

- ・「土日を営業日から除外するなど営業日を減らしている」と回答した事業所が8事業所、「利用者の人数制限をしている」と回答した事業者が39事業所であった。

### 【利用者の人数制限をしているサービス種別 上位3位】

「訪問介護」24事業所、「通所介護」10事業所、「小規模多機能型居宅介護」3事業所

「訪問介護」が他サービス種別と比較して、人材不足への対策として、利用者の人数制限をしている傾向がある。

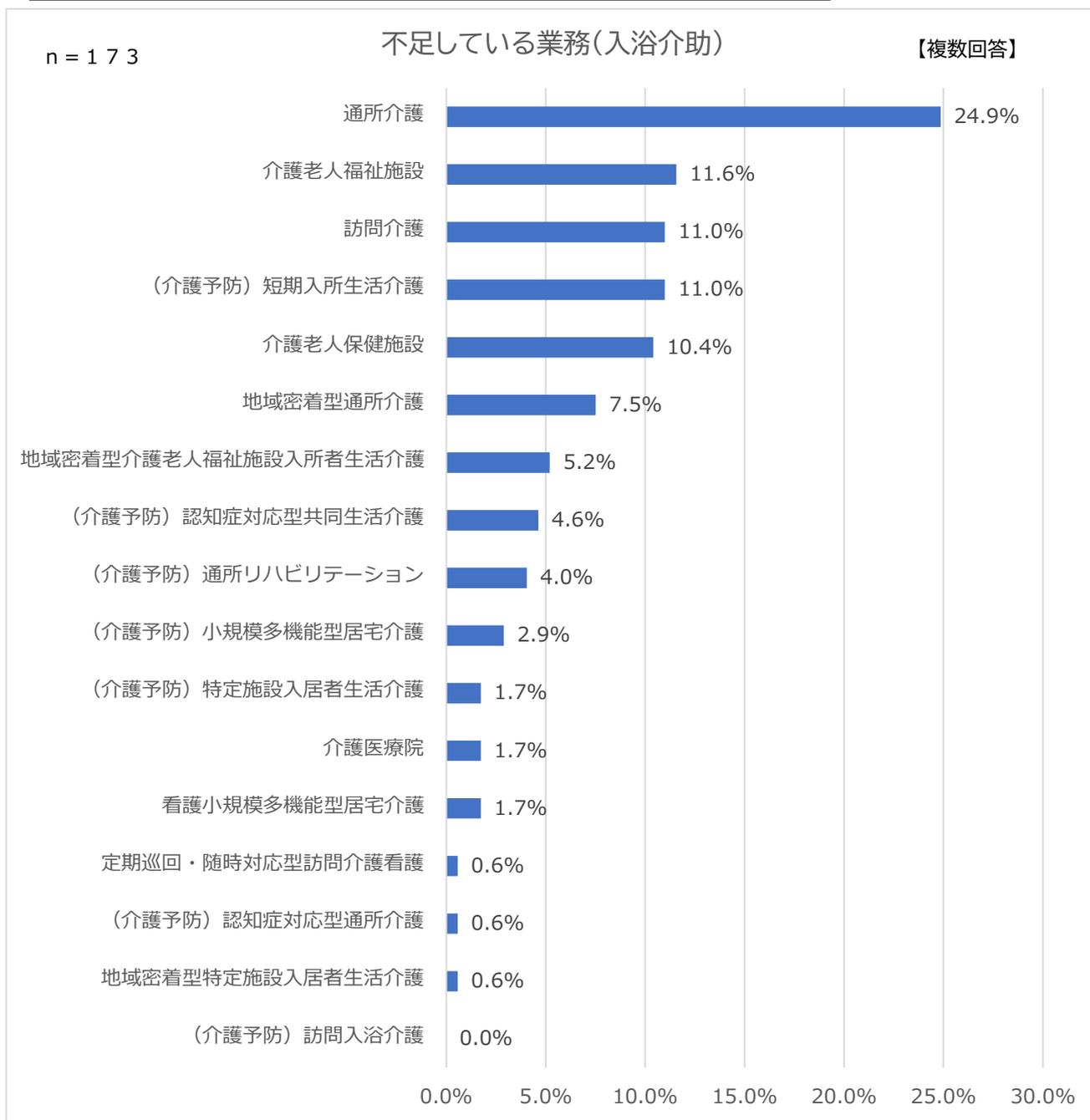


### ③ 介護業務の中でも、どの業務の人員が足りないのか

実態調査「Q6-1 事業所で従業員が不足している業務」

- ・「入浴介助」が全体の32.2%と一番多く、次いで「夜間帯の勤務」が23.3%、「食事介助」が23.1%、「排泄介助」が18.1%という結果になった。また「その他」は18.8%であり、そのうち4割程度が「送迎業務」の回答であった。

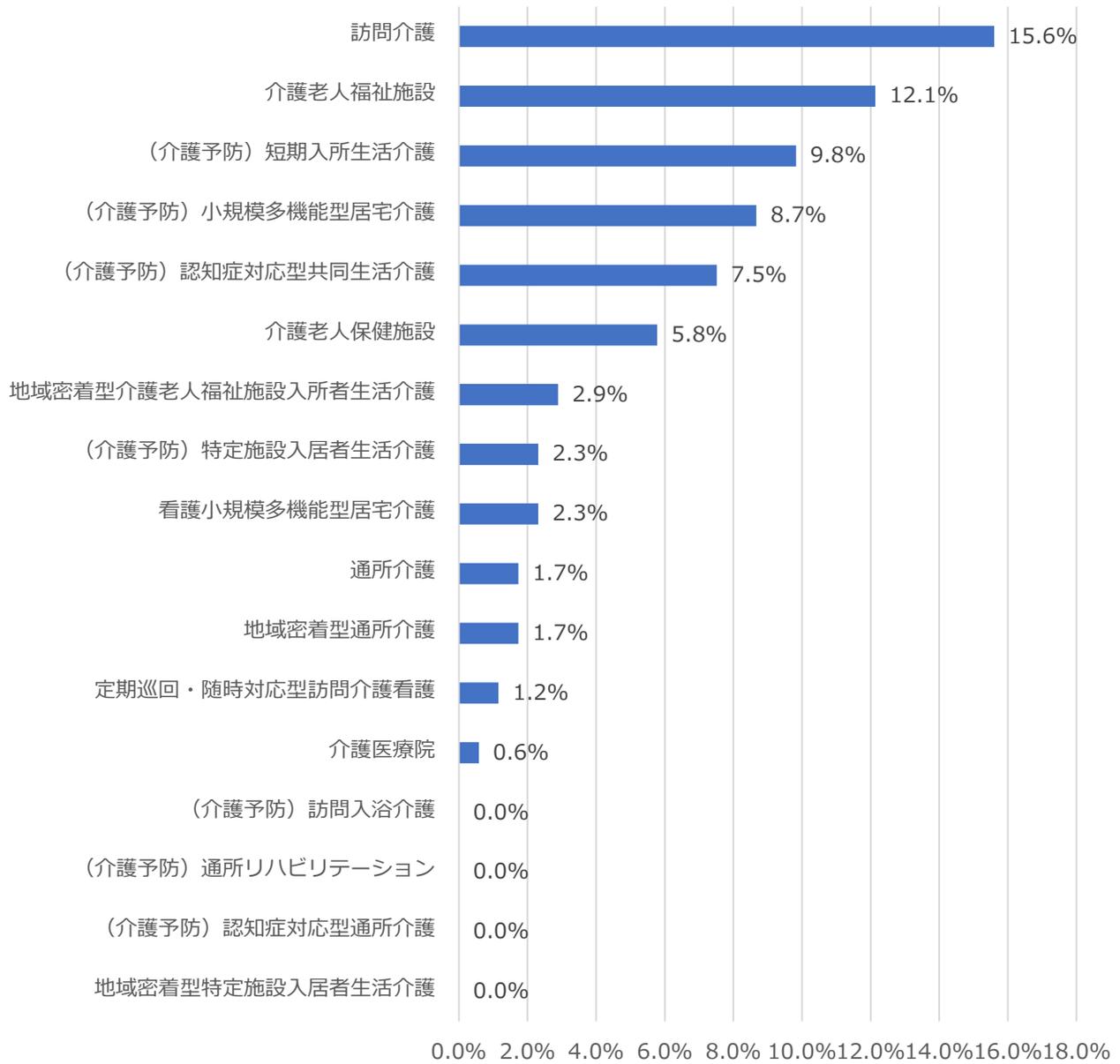
サービス種別ごとに分析した結果、「通所介護」は「入浴介助」を行う人員が不足しており、「訪問介護」「入所系の施設」については「夜勤帯の勤務」の人員が不足していた。



n = 125

### 不足している業務(夜間帯の勤務)

【複数回答】



#### ④ 介護助手の活用について

実態調査「Q12-1 事業所内での役割分担・介護助手の活用」

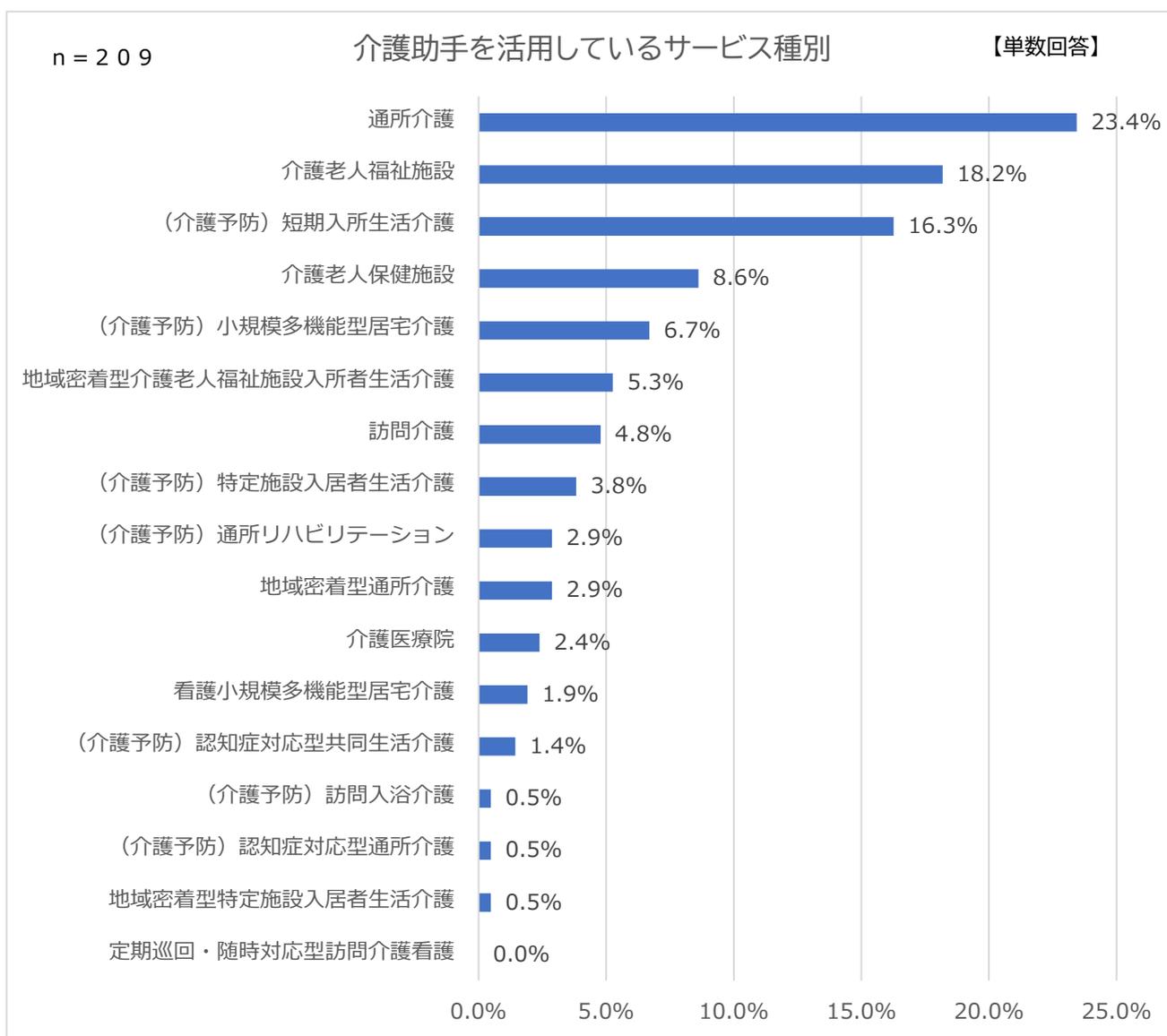
- ・間接的な業務（清掃・洗濯など）のみを担当する介護助手を活用していると回答した事業所は38.9%であった。担当業務については、「掃除（浴室、トイレ）」が67.3%と一番多く、次いで「ゴミ出し」が59.7%、「掃除（居室）」が56.4%、「ベッドメイキング」52.6%と続く。

回答した事業所数の合計をサービス種別ごとに分析した結果が以下のとおりである。

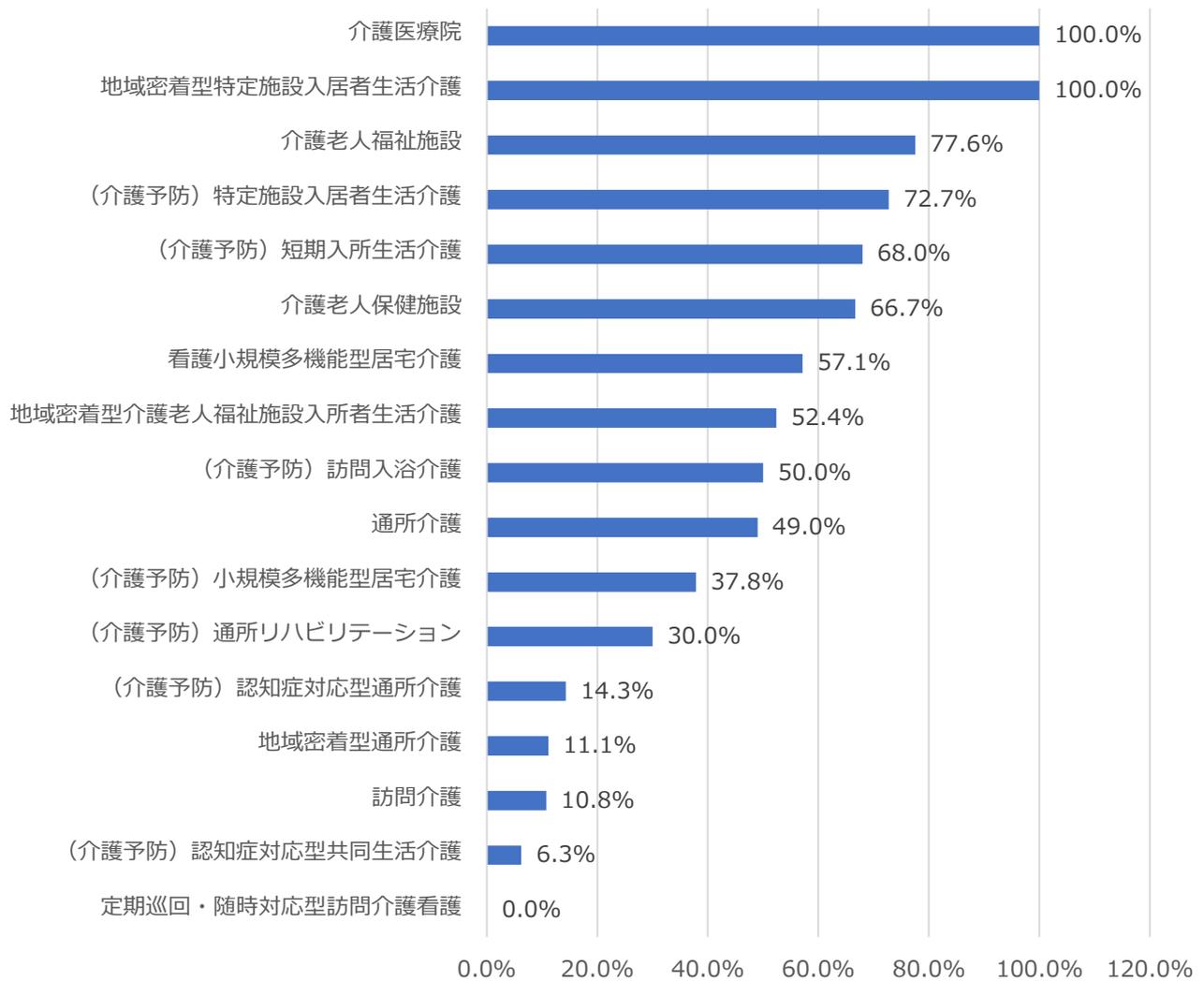
##### 【介護助手を活用しているサービス種別 上位3位】

「通所介護」23.4%、「介護老人福祉施設」18.2%、「短期入所生活介護」16.3%

サービス種別ごとに活用率を分析した結果、「介護医療院」「特定施設入居者生活介護」「介護老人福祉施設」「短期入所生活介護」「介護老人保健施設」については、6割以上が介護助手の活用を行っていた。



### 介護助手を活用しているサービス種別ごとの活用率

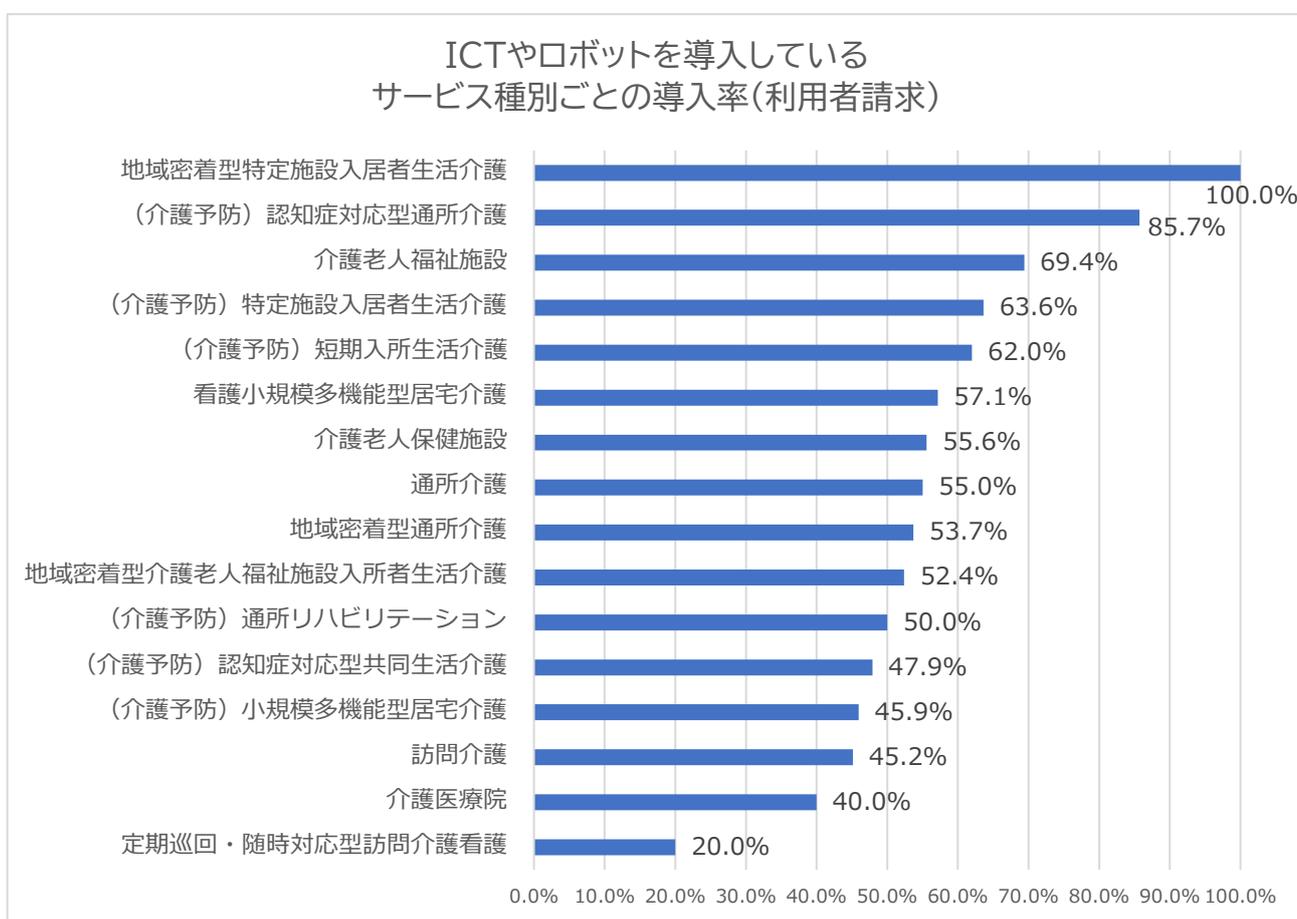


## ⑤ ICTやロボットの導入状況について

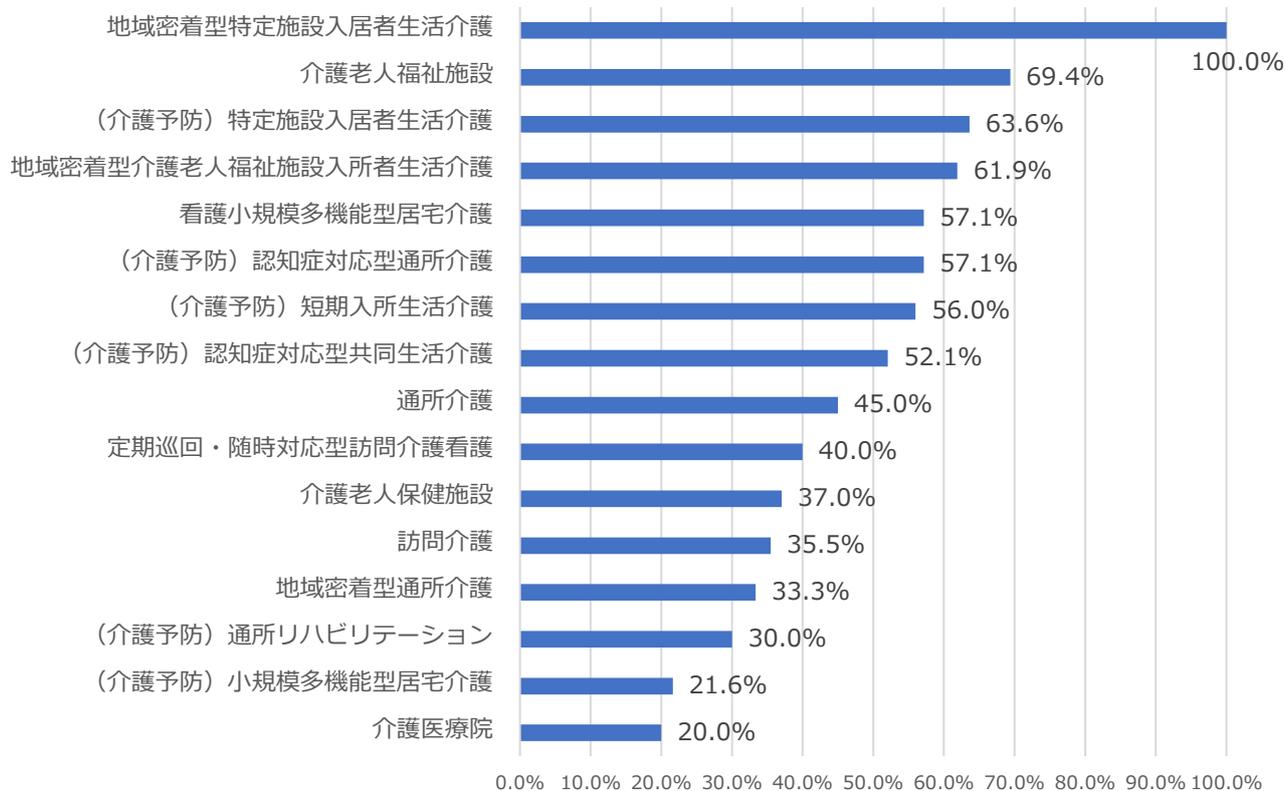
実態調査「Q15-1 ICTやロボットの導入状況」

・導入状況については、「利用者請求（会計等）」が53.6%と一番多く、次いで「介護・業務記録（バイタルチェック等）」が44.5%、「勤怠管理」が32.8%、「見守り（カメラ・センサー（眠りSCAN）等）」24.0%と続く。

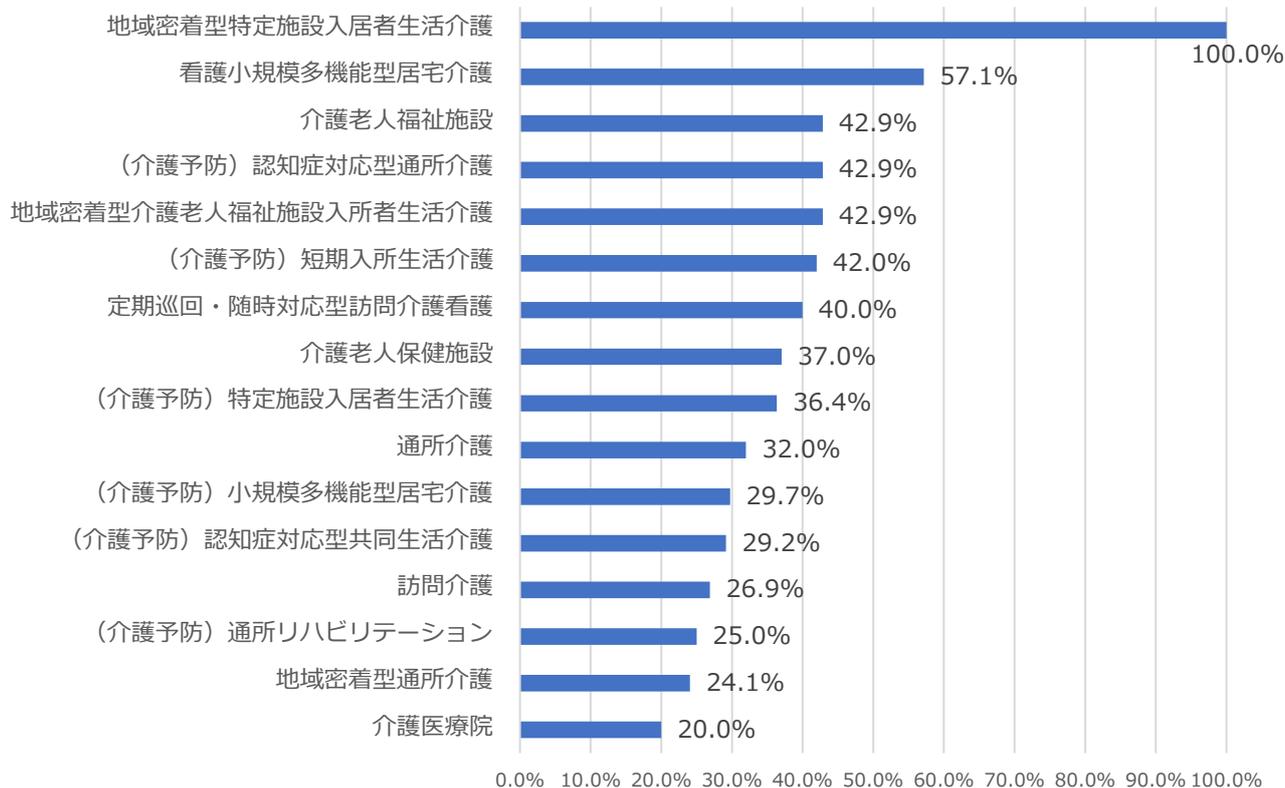
サービス種別ごとに分析した結果、「利用者請求（会計等）」「介護・業務記録（バイタルチェック等）」について、「特定施設入居者生活介護」「通所介護」「介護老人福祉施設」「短期入所生活介護」「看護小規模多機能型居宅介護」「認知症対応型共同生活介護」が約5割～6割導入をしており、「見守り（カメラ・センサー（眠りSCAN）等）」について、「介護老人福祉施設」「短期入所生活介護」「介護老人保健施設」が約5割～6割導入をしていた。



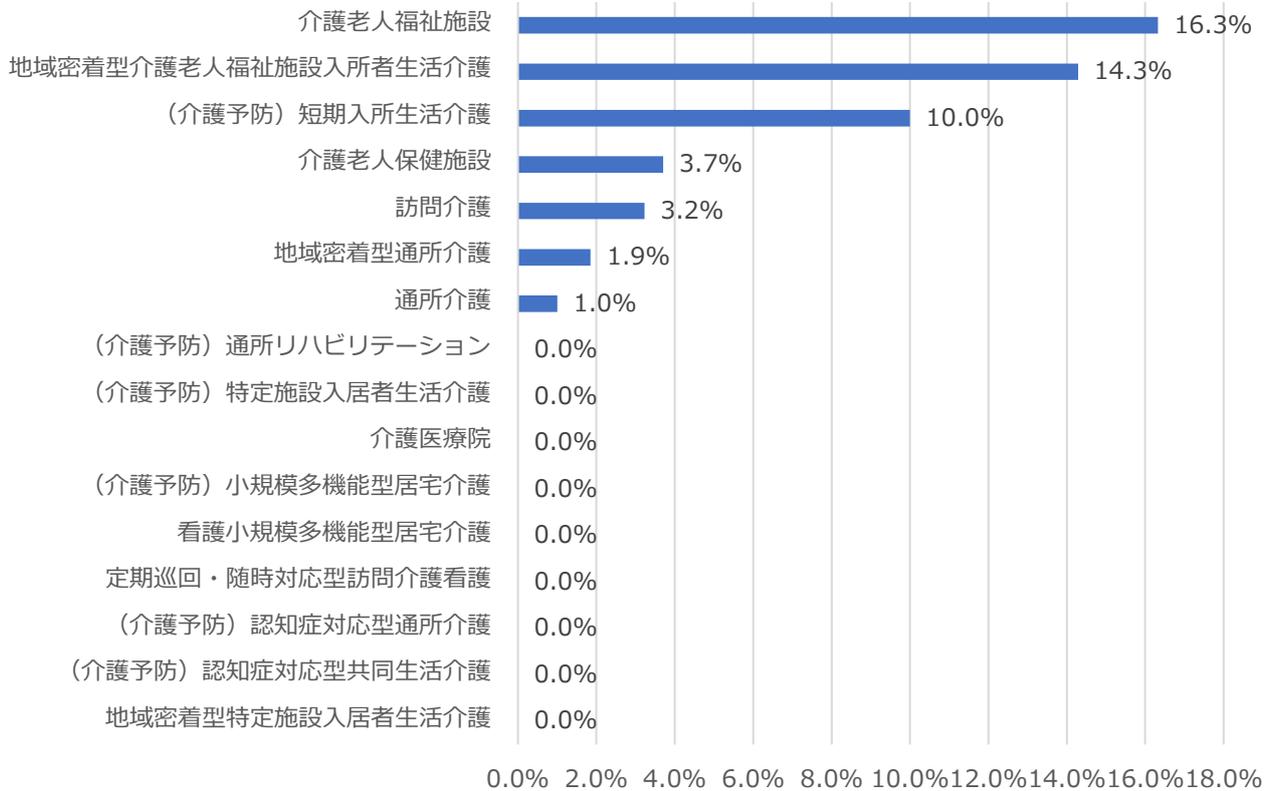
### ICTやロボットを導入している サービス種別ごとの導入率(介護・業務記録)



### ICTやロボットを導入している サービス種別ごとの導入率(勤怠管理)



ICTやロボットを導入している  
サービス種別ごとの導入率(移乗介護)



ICTやロボットを導入している  
サービス種別ごとの導入率(見守り)

